

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

● 家政学部 家政学専攻のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

(A)カリキュラムの編成について

(A-1)カリキュラム編成の基本方針について

家政学専攻のカリキュラムは、基礎科目と専門科目から構成されます。

すべての科目において、グループワークの機会を設定しています。

そして、地域と連携したプロジェクトを各年次に配置することによって、社会人基礎力・pisa 型学力を育成していきます。

授業形態は、講義・演習・実習の3タイプ用意しています。各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成しています。

基礎科目は、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために、家政学部家政学科共通科目として編成しています。

基礎科目の卒業要件は 30 単位以上取得することです。

専門科目は、これからの時代の新しいライフスタイルを創造しうる能力を持った生活者および衣・食・住の領域のエキスパートを育成するための科目として編成します。また、「中学校、高等学校の教諭(家庭)」の資格も取得可能です。

専門科目の卒業要件は 90 単位以上を取得することです。

(A-2)教養教育プログラムについて

教養教育とは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の基礎的・体系的な一般的知識・技能のことです。

これらの科目は基礎科目と位置づけ、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」の3分野で編成しています。

- ①「教養分野」では、自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。
- ②「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康に関する基礎的知識・技能を学修する。
- ③「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。

(A-3)専門教育プログラムについて

専門教育プログラムは、「家政学／生活の基礎を学ぶ科目群」「生活提案の技法を学ぶ科目群」「生活提案実践の科目群」の3つの専門科目群で編成されています。

これら3つの専門科目群により、生活に関する専門的知識・技能を獲得し、それを活用しながら、自らを含む地域社会の課題を解決する方策を実践的に学修します。

①「家政学／生活の基礎を学ぶ科目群」について

この科目群では、生活に関する基礎的知識・技能を獲得するために、衣・食・住の各領域の概論(衣生活論・食生活論・住生活論)と基礎的な実習(被服実習Ⅰ・基礎調理実習・インテリアデザイン)及び文化論(服飾文化論・食文化論・住文化論)を必修科目として置く。

さらに、生活に関する専門的知識・技能を獲得するために、衣・食・住の各領域の講義・実験・実習を置く。

②「生活提案の技法を学ぶ科目群」について

この科目群では、「家政学／生活の基礎を学ぶ科目群」で学修した基礎的知識・技能を活用するために必要なリサーチの手法、色や形をコントロールする方法、効果的なプレゼンテーションの技法などを獲得

するための科目を置く。

③「生活提案実践の科目群」について

この科目群は、キャリア形成関連科目と生活スタジオ関連科目から構成する。

キャリア形成関連科目においては、大学生生活4年間を含めた自分自身の生活をデザインし、他者との関係を構築していくための科目を置く。生活スタジオ関連科目においては、新しいライフスタイルをデザインすることができる生活者となるために、地域社会の課題解決に向けた学生発案型のPBLを行う。

(A-4)初年次教育プログラムについて

初年次教育として「キャリア形成Ⅰ、Ⅱ」「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」及び「未来へつなぐアウトリーチ」を配置しています。

「キャリア形成Ⅰ、Ⅱ」では、「人間関係形成能力」と「リテラシー能力」の向上に焦点を当て、教育目標の基盤を育成しています。

「未来へつなぐアウトリーチⅠ」では、PDCA(P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正)サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指します。

これらの科目では、他者との関わりを重視しながら、以下の能力を育成していきます。

- ①生活における他者との関わり的重要性を知る。
- ②「見た」・「聞いた」・「読んだ」内容を論理的にまとめて書く力を育成する。
- ③地域社会の課題を発見し、他者と協調し、その課題解決に取り組むことができる人間となるための基礎的な力を育成する。

(A-5)キャリア教育プログラムについて

卒業後の進路を保障するために、以下の3点に焦点を当てたインターンシップの実施と就職支援プログラムとしての「キャリア形成Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ」を配置しています。

- ①インターンシップを通して、仕事の現場を体験的に確認し、組織の一員としての使命感、責任感を育成します。
- ②適性検査、自己分析を行い、自分に合った進路の選択を考える能力を育成します。
- ③様々な業種・職種で活躍する社会人及び先輩の講話を聴き、自分の能力を社会貢献につなげていくための能力の適格性、開発方法、心構えなどを育成します。

なお、中学校、高等学校教諭を目指す学生に対しては教職課程委員会と連携して「教員採用試験対策講座」を開設しています。

(A-6)リメディアル教育プログラムについて

初年次に配置している基礎科目の「生物」「化学」については、高校までの学習内容を再確認する内容を一部含んでいます。

公開講座「日本語を磨く、自分を磨く」において、日本語表現の基礎を学び直します。

(A-7)教職課程教育プログラムについて

教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、中学校、高等学校の教諭(家庭)免許が取得できるカリキュラムを編成しています。

授業方法は、以下の3点に焦点を当てて、講義に加え事例研究・模擬授業・集団討議を行います。

- ①教育課程、指導法について学びながら、学校における教育の意義や中学校、高等学校教諭の職務内容を理解する。
- ②模擬授業を通して、教育指導の実践能力を養う。

- ③教育実習を通して、指導の重要性を体験的に確認し、中学校、高等学校の教諭としての使命感、責任感を養う。

(B)カリキュラムの実施について

チームティーチング形式の授業を初年次から配置しています。複数の教員が関わることにより、家政学専攻の特徴的な学修への動機づけ・学修方法の理解、社会人基礎力の必要性を理解してもらいます。また、体験型学修の核となる学生間の人間関係の形成も視野に入れて授業を行います。

- ①体験型学修としてプロブレム型PBLとプロジェクト型PBLの2種類のスタジオ学修を用意する。このスタジオ学修は、学生が「無限の可能性」に挑戦する絶好の機会となる。
- ②スタジオ学修では、各年度ごとに設定するテーマの下で、教員と学生が小グループを組織し、家政学の専門的知識・技能を活用して、創造的作業を通して考えたことを目に見える形にして提案する能力を育成する。
この学修の過程では、学生個々の潜在能力を最大限引き出していくために社会人基礎力と pisa 型学力の発揮が必須となる。
- ③スタジオ学修で見出した自分の能力を進路実現に結びつけるために、「キャリア形成」等の科目を配置する。これらのキャリア教育を通して、職業に対する意識と職場への適応能力、社会人としての自覚を深める。
- ④クラス指導教授は定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。
- ⑤学修成果の評価は、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行う。
- ⑥ルーブリック評価等を用いて、評価の可視化を行う。ルーブリックはディプロマ・ポリシーの能力形成を評価できる評価内容とする。

(C)資格対応について

取得可能な資格は以下のとおりです。

- ①中学校教諭一種免許状(家庭)
- ②高等学校教諭一種免許状(家庭)
- ③博物館学芸員
- ④フードスペシャリスト
- ⑤社会教育主事任用資格

● 家政学部 管理栄養士専攻のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

(A)カリキュラムの編成について

(A-1)カリキュラム編成の基本方針について

管理栄養士専攻の教育課程は、基礎科目と専門科目から構成されます。

授業形態は、講義・演習・実習の3タイプ用意しています。各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成しています。

基礎科目は、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために、家政学部家政学科共通科目として編成しています。

基礎科目の卒業要件は18単位以上取得することです。

専門科目は、管理栄養士の資格を生かした「チーム医療」、「健康増進・疾病予防」、「食育・栄養指導」、「健康をテーマにした食品の研究・開発」等、管理栄養士の資格を生かした分野で活躍する人材の育成を目的としたカリキュラムを編成しています。また、「栄養教諭」の資格も取得可能です。

専門科目の卒業要件は94単位以上取得することです。なお、厚生労働省の定める管理栄養士養成施設であるので、法令に適合したカリキュラムとなっています。

(A-2)教養教育プログラムについて

教養教育とは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の基礎的・体系的な一般的知識・技能のことです。

これらの科目は、基礎科目と位置づけて、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」「専攻基礎」の4分野で編成しています。

①「教養分野」では自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。

②「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康に関する基礎的な知識・技能を学修する。

③「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。

④「専攻基礎」では、栄養学を学修するために必要な基礎的な専門知識を修得する。

(A-3)専門教育プログラムについて

管理栄養士専攻の専門教育は、専門分野の基礎となるものを専門基礎分野、応用となるものを専門分野に配置し、段階的に理解できるように授業を展開します。

(専門基礎分野)

①社会的課題としての保健・医療・福祉等についての基礎知識並びに環境因子、社会的諸制度としての衛生行政・衛生法規・地域保健対策等について理解するために、公衆衛生学に関する必修科目を置く。

②人体の構造や機能を体系的に理解した上で、主要疾患の成因・病態・診断、治療等について理解を深めるために、解剖・生理学・生化学・臨床医学に関する必修科目とともに実験・実習科目を置く。

③食品の化学成分の構造・性質、物性等の基礎知識及び調理・加工による変化、栄養性・嗜好性の高い食物を調製する技術、食品表示・安全性について学修するために、食品学・調理学・食品衛生学に関する必修科目とともに実験・実習科目を置く。

(専門分野)

①栄養の基本的概念及びその意義並びにエネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解するために、基礎栄養学に関する必修科目とともに実験科目を置く。

②各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理の基礎を理解するために応用栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。

- ③健康・栄養状態・食行動・食環境に関する情報を収集・分析するとともに、それらの総合的評価・判定に基づく栄養教育プログラムを作成する能力を修得するために、栄養教育論に関する必修科目とともに実習科目を置く。
- ④傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて栄養管理計画の作成・実施・評価に関する総合的マネジメントの考え方を理解するために、臨床栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。
- ⑤地域や職域の健康・栄養問題とそれを取り巻く諸要因を分析するとともに様々な健康・栄養状態の者に対する適切な栄養関連サービスのあり方について理解を深めるために、公衆栄養学に関する必修科目とともに実習科目を置く。
- ⑥給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般についてマネジメントを行う能力を修得するために、給食経営管理論に関する必修科目とともに実習科目を置く。
- ⑦各専門分野に関わる知識についてさらに理解を深めるとともに、管理栄養士に必要とされる知識・技能を統合して実践活動の場での課題解決能力を修得するために、「臨床総合演習」・「臨地実習」・「卒業研究」を置く。

(A-4)初年次教育プログラムについて

初年次教育として「管理栄養士への道」「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」及び「未来へつなぐアウトリーチ」を配置しています。

「管理栄養士への道」では、管理栄養士の職業に対する理解を深め、管理栄養士の行動特性を理解し、自己のビジョンを達成する生涯学習計画を立てる授業を行います。

- ①管理栄養士の職域を知り、役割を考える。
- ②卒業時の到達目標としての職業意識、特に重要な専門的行動能力(コンピテンシー)を知る。
- ③自己ビジョンに必要な知識・スキルを考える。

「未来へつなぐアウトリーチ I」では、PDCA(P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正)サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指します。

(A-5)キャリア教育プログラムについて

「課題解決型行動特性」及び「課題解決型学力」の修得、自己成長のためのキャリアビジョンの方向性や目標の明確化のために、「基礎キャリア教育」を配置しています。

各分野で活躍する専門家からの講話を聴く中で、自分の能力を社会貢献につなげていくための能力の適格性、開発方法、心構えなどを学び、望ましい管理栄養士の専門的行動能力(コンピテンシー)を学修し、就職につながる意識を高めます。

さらに、医療・福祉・地域・食品の4領域の分野の必修科目とともに実習科目を設け、これまでに学修した専門的知識・技能を活用して、実践活動に結びつけます。

(A-6)リメディアル教育プログラムについて

「基礎化学」・「応用化学」・「基礎生物学」・「応用生物学」・「国語力」の必修科目を基礎科目の専攻基礎分野に設定しています。これらの科目は、専門科目を学ぶための導入教育として配置しています。高等学校の履修者及び未履修者にとってリメディアル教育としても機能するように工夫しています。

(A-7)教職課程教育プログラムについて

教育の現場で必要とする知識・技能を修得して、栄養教諭免許が取得できるカリキュラム(15科目で構成)を編成しています。

授業方法は、以下の3点に焦点を当てて、講義に加え事例研究・模擬授業・グループ討議・ロールプレイ

ング等実践的な学修方法を取り入れます。

- ①学校における食育のあり方や栄養教諭の職務内容の理解等栄養教諭に必要な食育基本法や学校給食法等を学修します。
- ②食育の模擬授業や肥満・やせ、食物アレルギー等栄養教諭に必要な個別指導の実践能力を育成します。
- ③小学校(中学校)の役割・組織及び栄養教諭の職務内容に関する理解を通して、栄養教諭としての使命感と責任感を育成します。

(B)カリキュラムの実施について

カリキュラムの実施については、下記の通りです。

- ①各専門分野の科目においては、管理栄養士に必要な知識・技能を理解するために、講義とそれに関わる実験・実習を行う。
- ②課題発見・課題解決やチームで働く力、pisa 型学力を育成するために、PBL や社会人基礎力を授業方法に取り入れる。
- ③シラバス上に予習・復習内容及び必要な学修時間(目安)を記載し、授業の内・外での能動的な学修を促す。また、資格取得に向けての課題の提出、資格対策授業等の学修支援を行う。
- ④クラス指導教授は定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。
- ⑤学修成果の評価は、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行う。
- ⑥ルーブリック評価等を用いて、評価の可視化を行います。ルーブリックはディプロマ・ポリシーの能力形成を評価できる評価内容とする。

(C) 資格対応について

取得可能な資格は以下のとおりです。

- ①管理栄養士国家試験受験資格
- ②栄養士免許
- ③栄養教諭一種免許状
- ④食品衛生監視員任用資格
- ⑤食品衛生管理者任用資格

● 家政学部 こどもの生活専攻のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

(A)カリキュラムの編成について

(A-1)カリキュラム編成の基本方針について

小学校教諭一種免許、幼稚園教諭一種免許、保育士資格が取得できるように法令等に適合したカリキュラムを編成しています。なお、社会教育主事任用資格も取得可能です。

カリキュラムは基礎科目と専門科目から編成しています。授業形態は、講義・演習・実習の3タイプ用意しています。各科目の関連性を明確化するためにカリキュラムマップを作成しています。

基礎科目は、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を学修するために、家政学部家政学科共通科目として編成しています。

専門科目は、教育の意義や理論とともに、各教科教育によって、保育と教育の専門性を高める科目編成になっています。

基礎科目の卒業要件は 21 単位以上取得することです。

専門科目は、保育・教育職において必要な専門的な能力を獲得することを目的としたカリキュラム編成をしています。

専門科目の卒業要件は 93 単位以上を取得することです。

(A-2)教養教育プログラムについて

教養教育とは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の基礎的・体系的な一般的な知識・技能のことです。

これらの科目は、基礎科目と位置づけて、「教養分野」「保健体育分野」「外国語分野」「専攻基礎」の4分野で編成しています。

①「教養分野」では自然科学・人文科学・社会科学に関する基礎的な知識・技能を学修する。

②「保健体育分野」では、講義と実技を通して身体と健康についての基礎的な知識・技能を学修する。

③「外国語分野」では、異文化を理解する上で必要な基礎的な知識・技能を学修する。

④「専攻基礎」では、子どもと関わるための基礎的な専門知識を学修する。

(A-3)専門教育プログラムについて

専門教育は、こどもの生活専攻の専門科目によって編成されています。

専攻の強化科目である「専門演習」を軸に、資格取得に必要な専門的知識・技能の修得、模擬授業等の実践的な体験等を小学校教諭・幼稚園教諭・保育士に応じた以下の専門教育プログラムを用意しています。

①保育士としての心構えと専門的知識・技能を身につけるために、保育原理や保育5領域に関する必修科目を置く。

②幼稚園教諭としての心構えと専門的知識・技能を身につけるために、保育系の科目、幼児理解や教育経営論等専門科目に加えて教育実習を必修科目として置く。

③小学校教諭としての心構えと専門的知識・技能を身につけるために、教科教育法や教科研究に加えて教育実習を必修科目として置く。

(A-4)初年次教育プログラムについて

初年次教育として、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」と「未来へつなぐアウトリーチスタートアップ」及び「未来へつなぐアウトリーチ」を配置しています。

「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、保育・教育職に対する理解を深めるとともに、学修の前提となる基礎知識、コミュニケーションを円滑にするための集団活動、そして子どもと関わるための心構えを学びます。

- ①建学の精神を踏まえた「学びを理解する」ための学修を行う。
- ②子どもと関わることを通して言葉や自然科学について見つめ直すための学修を行う。
- ③コミュニケーションの重要性を理解し、主体的に発言する態度を身につけるための学修を行う。
- ④他者と積極的に関わり、グループやクラスで活動をするための学修を行う。
- ⑤系列の幼稚園の見学等を通し、子どもと関わるための心構えの学修を行う。

「未来へつなぐアウトリーチ I」では、PDCA(P:計画、D:実施、C:チェック、A:修正)サイクルを活用して、家政学の核となる衣・食・住・消費活動などの生活環境の視点から地域の課題を発見し、その課題解決を目指します。

(A-5)キャリア教育プログラムについて

卒業後に小学校教諭、幼稚園教諭、保育士として自立して生きていくための能力を育成し、人生に必要な様々な力を修得するために、以下の2点に焦点を当てたキャリア教育を実施しています。

- ①各種の実習(保育実習・教育実習・施設実習・介護等体験実習)とその事前事後指導を通して、保育・教育職に就くための能力と組織の中で働く責任感や使命感を育成します。
- ②保育・教育職の現場で働く社会人や諸先輩の話聴き、自分がどのような適性を持ち合わせているかを考え、社会に対してどのように貢献していくかを考える力を育成します。

(A-6)リメディアル教育プログラムについて

基礎演習を中心に、国語・数学・自然科学・社会科学に関する高等学校卒業レベルの知識・技能の復習・確認を行うプログラムを用意しています。

1年生の授業では、以下の高等学校での既習事項について確認テストを行っています。

- ①敬語や文法、漢字等に関する基礎学力の確認と学び直し。
- ②数学、自然科学に関する基礎学力の確認と学び直し。
- ③政治、経済、社会等の問題についての認識と考察(新聞の利用)。

(A-7)教職課程教育プログラムについて

小学校教諭免許、幼稚園教諭免許が取得できる教科教育カリキュラムを編成し、教育の現場で活躍するための専門的知識・技能を学修します。

授業方法は、講義に加え事例研究や模擬授業、集団討議など行います。

- ①教育法規を通して、学校教育の意義・小学校教諭、幼稚園教諭の職務内容を理解する。
- ②小学校、幼稚園の組織体系・職務内容を通して、教諭としての使命感・責任感を養う。
- ③小学校の模擬授業を通して、教育指導の実践能力を養う。

(B)カリキュラムの実施について

小学校教諭免許、幼稚園教諭免許、保育士資格が取得可能なカリキュラムを編成し、教育・保育の現場で活躍するための専門的知識・技能を学修します。なお、社会教育主事任用資格も取得可能です。

カリキュラムは、社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等の基礎科目と保育職・教育職に関する専門科目から編成されています。

すべての科目において、下記のように学生と教員による双方向的で実践的な学修を行っています。また、保育・教育の現場と触れ合い、体験的に学びの内容を確認するためのいくつかの活動も行います。

- ①学生同士および学生と教員のコミュニケーションを重視する授業(対話型授業)を行う。
- ②グループワークを取り入れ、発表を重視する授業(協力・協働型授業)を行う。
- ③知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意志を引き出すような授業(啓発型授業)を行う。

- ④クラス指導教授は定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。
- ⑤学修成果は、学期末テストだけでなく、レポートや小テスト、作品提出、学修発表などによって定期的に理解度・習熟度を確認し評価を行う。
- ⑥ルーブリック評価等を用いて、評価の可視化を行う。ルーブリックはディプロマ・ポリシーの能力形成を評価できる評価内容とする。

(C)資格対応について

取得可能な資格は以下のとおりです。

- ①小学校教諭一種免許状
- ②幼稚園教諭一種免許状
- ③保育士資格
- ④社会教育主事任用資格